

文学部長 インタビュー

我々が文学部長、池上先生に
文学部について教えてもらいました！

——市大文学部って、どんな事をしている所なんでしょうか。
——市大文学部はやっぱり人間の精神的な面に注目して勉強する所かな。
——市大文学部って、どんな事をしている所なんでしょうか。
——市大文学部はやっぱり人間の精神的な面に注目して勉強する所かな。
——他の学部に比べると文学部は、すぐに役立つはつきりした資格が取れて、それに関連した職業に就けるという学部ではないかもしません。けれども世の中の人皆が実利に適うことしかやらないとなると、何か大切なものを失ってしまうことがあります。実利を超えた関心を育む場や、そういういた関心を持続けてくれる人が必要だと思っていますので、むしろ文学部には自先の利益やすぐに役立つことを外に置いてじっくり物事の本質を考えられる、そういう人に来て欲しいかな。
——文学部のイメージって言ったら歴史や文学をやるところ、は分かりやすいですね。あとは哲学や外国語、外国の文化について学ぶことも。それに加えて社会学、心理学など人間の内面のことについても学べます。人間は文学や芸術など様々な文化を生み出してきましたよね。市大文学部ってこういうのは、それらの人間の生み出す文化について調べて、そしてそれを作りだしていく人間って一体どういふもののかっていうのを考える所。ちょっと抽象的ですがね。

——市大文学部の魅力を教えて下さい。
——やはり、色々な分野があることかなと思います。その中で多様な人がある程度自由にやっているけれども、それでいて、教育促進支援機構もそうですけど、あること

については団結するという側面もあります。こういう二つの側面を併せもっているのが市大文学部の魅力じゃないかなと思いますね。

——どんな人に文学部に来てほしいですか？

——他の学部に比べると文学部は、すぐに役立つはつきりした資格が取れて、それに関連した職業に就けるという学部ではないかもしません。けれども世の中の人皆が

——これから文学部が目指していく方向・目標などを聞かせてください。
——今は時代や科学技術が進歩して、大学も次々と新しい学部が登場していますね、もちろんそういう

長い歴史を経て作られてきた学問の伝統的な体系というのもあります。そういった基礎的な学問を決して崩すことなく、細く長く継承していく。その上で時代の変化や社会の要請にもアンテナを常にめぐらしながら、伝統的な学問が残してきたものをそこへどう結びつけ発展させるかということを考えていく、そんな学部にしていきたいですね。古いものを大切にしながら、かといって新しいものを拒絶することなくそこへどんどん取り入れていく。そんなことがこれから文学部の指針になるかなと

——池上先生、ありがとうございます！
——文学部って何の役に立つの？
——そうなんですよ（笑）。役に立つか立たないかっていう尺度で見ると確かに……分からないですが、いや、むしろそういうことをやるのが文学部だと思いますね。だからと言って、いやあ文学部の人全然就職ができないのかっていうと決してそんなことはないですし、

——文学部って何の役に立つの？
——そうなんですよ（笑）。役に立つか立たないかっていう尺度で見ると確かに……分からないですが、いや、むしろそういうことをやる

——池上先生、ありがとうございます！

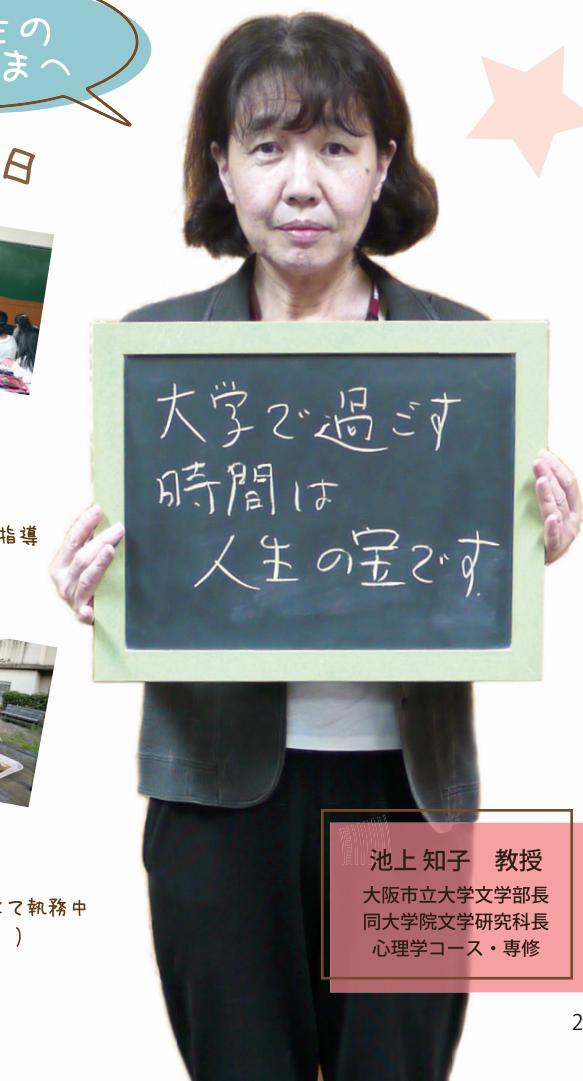


インタビュー/
久保井和
(言語応用コース2回)
写真/
牧野郁香
(教育学コース2回)

文学部・文学研究科の歩み

1880年	大阪商業講習所
1928年	旧制大阪商科大学
	+ 大阪市立都島工業専門学校
	+ 大阪市立女子専門学校
	+ 大阪市立医科大学
1949年	新制大阪市立大学 文学部の前身、法文学部文学科が誕生
1953年	文学部が独立する(1学科10専攻)
1998年	3学科15コース体制になる
2001年	大学院の重点化 アジア都市文化学専攻が加わり4専攻に
2002年	文部科学省の「21世紀COEプログラム」に採択される
2010年	現在の、学科:3学科13コース2領域、大学院:4専攻14専修になる
2013年	創設60周年を迎える

池上先生の1日



池上 知子 教授
大阪市立大学文学部長
同大学院文学研究科長
心理学コース・専修

学部と院の仕組み



学部の説明

文学部・文学研究科組織図

院の説明

哲學歴史学専攻

会と文化の構造・発展を明らかにし、人間の在り方を歴史と文化の中に追及することを目指します。人間理解のための2つの基本的な座標軸といってよい哲学的観点と歴史学的観点を統合した体制は、人間社会と文化の本質を明らかにすることを可能にします。専攻内には、哲学・日本史学・東洋史学・西洋史学の各専門があります。

人間行動学専攻

行動・人間・社会の関係を社会問題や文化摩擦など現代都市が抱える諸問題を視野に入れ、総合的・学際的に捉える教育研究を行うものです。その際、フィールドワークなどの行動科学方法論を基礎に実証的データに基づく人間行動などの分析や理解を重視します。専攻内には社会学・心理学・教育学・地理学の各専門分野があります。

言語文化学専攻

の宮みの核をなす言語に関わる文化現象の全領域の解明を目指します。従来の国家・言語単位の区分に沿うる研究の他、現代の文化状況に対応する領域として、言語応用学・表現文化学の各専門分野を増強しています。専攻内には国語国文学・中国語中国文学・英語英米文学・ドイツ語フランス語圏言語文化学・言語応用学・表現文化学の各専門分野があります。

アジア都市文化学専攻

特に都市文化の現状・特性・形成・考究を中心に東南アジアを中心とするアジアの文化、特に都市文化の現状・特性・形成・考究をめざしています。アジア諸都市の研究を軸とした日本初の専攻です。留学生・社会人にも門戸を開設します。フィールドワーク指導にも力を入れ、これまでの大学院に欠けていた「情報交流型」教育研究を行ないます。

四年間の流れ

文学部の4年間は他の学部と違い、学科決定までに1年間の熟慮期間があります。1回生の間はさまざまな授業を受け、さまざまな学問分野に触れて、自分の興味関心を広げます。外国语は、英語・中国語・ドイツ語・フランス語・朝鮮語・ロシア語の中からいづれか2言語を選択して履修します。

1回生



2回生



3回生では専門性の深みも増し、コースによってはかなりの頻度でプレゼンを行なうこともあります。自分の興味関心のある分野についての考えをより深め、また卒業論文作成のための準備の演習（プレゼンテーション）が開講される「コース（領域）」があります。

3回生



4回生



4回生は主に卒業論文の執筆に入ります。コースの担当の先生方からアドバイスを受けつつ卒業論文としてまとめあげます。文学部では卒業論文の提出が義務付けられており、毎年多様な卒業論文が書かれています。また卒業論文作成と並行して就職活動や大学院入試に向けての勉強に励みます。教員免許取得を目指す人や博物館芸術員資格を取ろうとする人が実習に参加するのも4回生のことです。

